

## 2020年 結核登録者情報調査年報集計結果について

当該年報は、2020年1月1日から同年12月31日の間に、新たに登録された結核患者及び潜在性結核感染症(LTBI)の者と、2020年12月31日現在に登録されているすべての登録者に関する状況について、感染症サーベイランスシステム(NESID)上の結核登録者情報システムに全国の保健所から入力されたものを、「結核登録者情報調査年報」として取りまとめたものである。

～表ごとの解説～

### 【表1 諸外国と日本の結核罹患率について】

2020年の結核罹患率（人口10万対）は10.1であり、前年と比べ1.4ポイント減少している。

日本の結核罹患率は近隣アジア諸国に比べ低い水準にあり、米国等の先進国の水準に年々近づいている。

2020年の結核罹患率の減少については、新型コロナウイルスの影響による受診抑制等も要因の1つと考えられる。

### 【表2 結核罹患率の都道府県別おもな順位について】

都道府県別の結核罹患率（人口10万対）は、大阪府、徳島県、岐阜県、沖縄県、長崎県の順に高く、宮城県、山梨県、岩手県、鳥取県、山形県の順に低くなっている。大阪府の結核罹患率は15.8であり、同府の中でも大阪市の罹患率が最も高く、21.0となっている。（表2、表7-2）

### 【表3 結核の死亡数及び死亡率の年次推移について】

2020年の結核による死亡数は1,909人（概数）で、前年の2,087人に比べ178人減少している。死亡率（人口10万対）も1.7から1.5に減少している。

### 【表4 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移について】

(1) 2020年に、新たに結核患者として登録された者の数（新登録結核患者数）は12,739人で、前年より1,721人(11.9%)減少している。減少率を見ると、2018年から2019年にかけての減少率は7.2%（15,590人→14,460人）であることから、減少幅は4.7ポイントの大幅な拡大となっている。（表4-1）

(2) 2020年の罹患率（人口10万対）は10.1であり、前年の11.5より

1.4(12.2%)減少している。減少率を見ると、2018年から2019年にかけての減少率は6.5%であることから、減少幅は5.7ポイントの大幅な拡大となっている。(表4-1、図1)

(3) 喀痰塗抹陽性肺結核の患者数は4,615人で、前年より616人(11.8%)減少している。(表4-2)

(4) 喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率(人口10万対)は3.7であり、前年の4.1より0.4減少している。喀痰塗抹陽性肺結核の患者が全体に占める割合は36.2%で、前年と同じである。(表4-2)

【表5 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数および潜在性結核感染症新登録者数について】

(1) 年齢階級別の新登録結核患者数では、0~14歳の小児結核は52人で前年から14人(36.8%)の増加となっている。前年増加となった90歳以上では228人(11.6%)の減少となっている。15歳以上の年齢階級では全て減少となっている。特に、15歳~19歳で67人(47.2%)の減少、40~49歳で244人(24.8%)の減少と大きな減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80~89歳が28.9%と最も多くなっている。90歳以上でも割合は13.7%となっており増加傾向は続いている。(表5-1)

(2) 年齢階級別の喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数は、0~14歳の小児結核での発生は3人となっている。15歳以上の年齢階級では全て減少となっている。特に、15~19歳で18人(47.4%)、40~49歳で82人(26.6%)が大きな減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80~89歳が31.5%と最も大きくなっている。(表5-2)

(3) 2020年に登録された小児結核患者(15歳未満)のうち、重症結核例である粟粒結核及び結核性髄膜炎患者数は、粟粒結核と結核性髄膜炎を併発した0歳の患者が1人となっている。(表5-3)

(4) 2020年に新たに登録された潜在性結核感染症の者の数は5,575人で、前年より2,109人の大きな減少となっている。全ての年齢階級で登録数は減少となっているが、50~59歳の385人(33.6%)、40~49歳の384人(37.5%)、20~29歳の353人(40.7%)が特に大きな減少となっている。(表5-4)

- (5) 新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症新登録者数の比は、14歳以下の年齢階級では2.3以上となっており、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。特に0～4歳は13.5となっている。また、20歳以上の年齢階級は全て1を下回っており潜在性結核感染症新登録患者数の方が少なくなっている。  
(表5-5)
- (6) 職業別では、2020年の潜在性結核感染症新登録者数における医療職(看護師・保健師、医師、その他の医療職)の数の割合は19.4%で、最近5年間で最も低い割合となっている。一方、無職・その他の割合が、前年の33.2%から38.5%に増加となっている。乳幼児、保育園・幼稚園児、小中学生、高校生以上の生徒学生の割合は12.0%から12.2%にわずかな増加となっている。(表5-6)
- (7) 外国生まれ新登録結核患者数は、前年から130人減少して1,411人となっている。しかし、新登録結核患者における外国生まれの者の割合は11.1%と前年の10.7%から0.4ポイントの増加となっている。20～29歳では外国生まれ新登録結核患者数は前年に比べて119人の減少で732人となり、新登録結核患者における外国生まれの者の割合は71.3%と前年から1.8ポイントの減少となっているが、依然として高い割合となっている。30～39歳では外国生まれ新登録結核患者数は47人増加して330人となり、外国生まれの者の割合も前年の36.9%から48.1%と大きく増加している。(表5-7)
- (8) 外国生まれ新登録結核患者のうち、入国5年以内の者は、前年の836人から167人減少し669人となっている。特に20～29歳の年齢階級では、前年から130人減少して458人となっている。  
(表5-8)
- (9) 日本生まれ新登録結核患者数は、前年の12,567人から1,487人減少して11,080人となっている。年齢階級別では80～89歳の患者数が最も多く3,578人で日本生まれ新登録結核患者の32.3%となっている。14歳以下の小児を除く年齢階級では、新登録結核患者数は全て減少となっている。減少数が最も大きかったのは80～89歳で351人の減少となっている。減少割合は15～19歳が27人の減少で43.5%と最も大きくなっている。90歳以上は184人減少して1,696人となっている。(表5-9)

【表 6 新登録結核患者数及び結核罹患率 都道府県別・年次推移について】

- (1) 都道府県別の新登録結核患者数は、47都道府県のうち6の県（青森県、三重県、島根県、徳島県、愛媛県、沖縄県）で増加している。新登録結核患者数が最も多いのは東京都の1,589人で、次いで大阪府の1,400人となっている。（表6-1）
- (2) 都道府県別の結核罹患率は、47都道府県のうち6の県（青森県、三重県、島根県、徳島県、愛媛県、沖縄県）で前年から増加している。一方、結核低まん延の水準である罹患率が10を下回った都道府県の数も、前年の22から増加して30となっている。最も低い宮城県の結核罹患率は5.9となっている。（表6-2）

【表 7 年末時結核登録者数及び有病率の年次推移について】

2020年末現在の結核登録者数は31,551人と、前年の34,523人より2,972人減少している。そのうち、活動性全結核の患者数は8,640人と、前年より1,055人減少している。また、2020年末の結核有病率は、前年の7.7から0.9減少し、6.8となっている。（表7）

【表 8～表 13 新登録結核患者の疫学的特徴について】

<再治療者>

2020年新登録結核患者のうちの再治療者は、前年の667人から121人減少して546人となっている。このうち、前回治療年が2010年以降の者は338人と再治療者のうち61.9%となっている。（表8）

<発見の遅れ>

- (ア) 2020年の新登録肺結核患者のうち有症状の者の中で、受診が遅れた（症状発現から受診までの期間が2か月以上）患者の割合は、前年から1.3ポイント減少して19.1%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、受診が遅れた患者の割合は27.5%で6.9ポイントの大きな減少となっている。（表9-1）

- (イ) 診断が遅れた（受診から結核の診断までの期間が1か月以上

) 患者の割合は、20.9%となっている。(表9-2)

(ウ) 発見が遅れた(症状発現から結核の診断までの期間が3か月以上)患者の割合は、19.7%となっている。(表9-3)

#### <薬剤耐性>

2020年の新登録肺結核培養陽性結核患者6,645人のうち、薬剤感受性検査結果が判明した者(INH、RFP両剤感受性検査結果判明者)は5,209人で、割合は78.4%となり、前年の82.1%から3.7ポイント減少となっている。このうち、多剤耐性肺結核患者数(INH、RFP両剤耐性の者)は46人で、前年より2人増加となっている。新登録肺結核培養陽性結核患者の多剤耐性結核割合は0.7%で前年の0.5%から0.2ポイント増加となっている。また、薬剤感受性検査結果が判明した者のうち、主要4剤(HRSE)全ての薬剤に対し感受性のある患者の割合は88.0%となっている。(表10)

#### <糖尿病、HIV合併>

2020年の新登録結核患者のうち、糖尿病合併患者は1,883人で、新登録結核患者の14.8%となっている。また、HIV検査を実施した患者は877人で、新登録結核患者の6.8%にあたり、このうちHIV陽性は31人で、新登録結核患者の0.2%となっている。(表11)

#### <医療従事者>

(ア) 2020年の新登録結核患者のうち、看護師・保健師からの登録患者は123人で、前年の152人から29人の減少となっている。新登録結核患者のうちの割合は1.0%と前年から0.1ポイント減少となっている。年齢階級別では、30~39歳が最も多く前年の27人から9人増加して36人となっており、同年齢階級新登録結核患者の5.2%となっている。(表12-1)

(イ) 2020年の新登録結核患者のうち、医師の登録患者は33人で、前年より6人減少となっている。新登録結核患者中の割合は0.3%となっている。30歳から69歳の年齢階級別新登録結核患者中割合は0.4~1.1%となっている。(表12-2)

(ウ) 2020年の新登録結核患者のうち、理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師など、看護師・保健師・医師以外の者で医療機関に勤務する者の登録患者数は223人で昨年の221人から2人の増加となり、新登録結核患者のうちの割合は1.8%となっている。30歳から69歳での年齢階級別では、30~39歳における割合

が最も大きく、同年齢階級新登録結核患者の7.4%となっている。  
(表12-3)

#### <無職臨時日雇など>

2020年の新登録結核患者のうち、登録時の年齢が20～59歳であり、登録時の職業が無職臨時日雇等であった者は673人で、前年の762人から89人減少している。新登録結核患者のうちの割合は19.9%で前年の19.2%から0.7ポイントの増加となっている。年齢階級別での患者数は、高齢ほど多くなっており、55～59歳は136人で、同年齢階級の29.6%となっている。

また、男性の患者に占める無職臨時日雇等の者の割合は55～59歳が最も割合が大きく28.4%となっているが、前年から3.2ポイント減少となっている。(表13-1、13-2)

#### <治療成績>

2019年の新登録結核患者の2020年末での治療成績は、治療成功が66.3%、死亡23.1%、失敗0.1%、脱落・中断1.4%、転出2.6%、治療中6.4%、不明0.2%となっている。60歳以上から年齢階級の上昇にともなって死亡割合が増加し、60～69歳で12.6%、70～79歳で19.0%、80～89歳で35.9%、90歳以上で54.5%となっている。死亡の影響が少ない59歳以下の年齢階級の治療成功割合は75.4%～92.6%となっている。脱落・中断は40～49歳で最も高く2.4%となっている。(表14-1)

2019年の新登録再治療結核患者の2020年末での治療成績は、治療成功が69.1%、死亡18.3%、失敗0.1%、脱落・中断1.3%、転出1.3%、治療中9.4%、不明0.3%となっている。(表14-2)

2019年の潜在性結核感染症新登録者のうち治療を開始した者の2020年末での治療完了率は84.2%となっている。脱落・中断は7.5%となっているが、中高年齢階級では高く50～59歳では9.6%となっている。(表14-3)

2018年の新登録結核患者で多剤耐性結核患者の2020年末での治療成績は、対象66人のうち治療成功66.7%、死亡7.6%、失敗0.0%、脱落・中断3.0%、転出10.6%、治療中7.6%、不明4.5%となっている。

(表14-4)

表 1. 諸外国と日本の結核罹患率

国名	罹患率	年次
米 国	3	2019
オランダ	5	2019
デンマーク	5	2019
スウェーデン	5.5	2019
カナダ	5.5	2019
ドイツ	5.8	2019
オーストラリア	6.9	2019
イタリア	7.1	2019
英 国	8	2019
フランス	8.7	2019
日 本	10.1	2020
シンガポール	41	2019
中国	58	2019
韓国	59	2019
タイ	150	2019
ベトナム	176	2019
インドネシア	312	2019
ミャンマー	322	2019
フィリピン	554	2019

諸外国のデータは、下記より引用

World Health Organization “TB country, regional and global profiles”

[https://worldhealthorg.shinyapps.io/tb\\_profiles/](https://worldhealthorg.shinyapps.io/tb_profiles/)

2021年7月26日アクセス

日本以外はWHOによる推定罹患率

2020年の結核罹患率（人口10万対）は10.1であり、前年と比べ1.4ポイント減少している。

日本の結核罹患率は近隣アジア諸国に比べ低い水準にあり、米国等他の先進国の水準に年々近づいている。

表 2. 結核罹患率の都道府県別おもな順位

	都道府県名	罹患率
罹患率の低い5都道府県	宮 城	5.9
	山 梨	5.9
	岩 手	6.1
	鳥 取	6.1
	山 形	6.6
罹患率の高い5都道府県	大 阪	15.8
	徳 島	13.5
	岐 阜	13.4
	沖 縄	12.7
	長 崎	12.4

同率の場合は小数点2位以下で順位を決定

都道府県別の結核罹患率（人口10万対）は、大阪府、徳島県、岐阜県、沖縄県、長崎県の順に高く、宮城県、山梨県、岩手県、鳥取県、山形県の順に低くなっている。大阪府の結核罹患率は15.8であり、同府の中でも大阪市の罹患率が最も高く、21.0となっている。



表3. 結核の死亡数及び死亡率の年次推移

年次	死亡順位	死亡数	死亡率
1950年	1位	121,769	146.4
1955年	5位	46,735	52.3
1960年	7位	31,959	34.2
1965年	7位	22,366	22.8
1970年	8位	15,899	15.4
1975年	10位	10,567	9.5
1980年	13位	6,439	5.5
1985年	16位	4,692	3.9
1990年	17位	3,664	3.0
1991年	20位	3,325	2.7
1992年	21位	3,347	2.7
1993年	21位	3,249	2.6
1994年	23位	3,094	2.5
1995年	23位	3,178	2.6
1996年	22位	2,858	2.3
1997年	22位	2,742	2.2
1998年	22位	2,795	2.2
1999年	21位	2,935	2.3
2000年	24位	2,656	2.1
2001年	25位	2,491	2.0
2002年	25位	2,317	1.8
2003年	25位	2,337	1.9
2004年	25位	2,330	1.8
2005年	25位	2,296	1.8
2006年	26位	2,269	1.8
2007年	27位	2,194	1.7
2008年	25位	2,220	1.8
2009年	24位	2,159	1.7
2010年	26位	2,129	1.7
2011年	25位	2,166	1.7
2012年	26位	2,110	1.7
2013年	26位	2,087	1.7
2014年	26位	2,100	1.7
2015年	29位	1,956	1.6
2016年	28位	1,892	1.5
2017年	30位	2,306	1.9
2018年	30位	2,204	1.8
2019年	31位	2,087	1.7
2020年	-	1,909	1.5

(注) 死亡率は人口10万対

人口動態統計より。2020年は概数。

2017年より死因統計に使用する分類を変更したことに伴い、死因を選択する統計上のルールも変更された。死因別死亡数の一部にみられる数値の大幅な変化には、これらの影響による変動が含まれている(人口動態統計月報年計(概数)の概況より)。

2020年は結核の死因の順位の公表はなかった。

2020年の結核による死亡数は1,909人(概数)で、前年の2,087人に比べ178人減少している。死亡率(人口10万対)も1.7から1.5に減少している。

表4-1. 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移

区 分	全結核（新分類）				全結核（旧分類）			
	実数／前年比		罹患率（人口10万対） ／前年比		実数／前年比		罹患率（人口10万対） ／前年比	
1992年					48,956		39.3	
1993年					47,437	△1,519	38.0	△1.3
1994年					44,590	△2,847	35.7	△2.3
1995年					43,078	△1,512	34.3	△1.4
1996年					42,472	△ 606	33.7	△0.6
1997年					42,715	243	33.9	0.2
1998年	41,033		32.4		44,016	1,301	34.8	0.9
1999年	43,818	2,785	34.6	2.2				
2000年	39,384	△4,434	31.0	△3.6				
2001年	35,489	△3,895	27.9	△3.1				
2002年	32,828	△2,661	25.8	△2.1				
2003年	31,638	△1,190	24.8	△1.0				
2004年	29,736	△1,902	23.3	△1.5				
2005年	28,319	△1,417	22.2	△1.1				
2006年	26,384	△1,935	20.6	△1.6				
2007年	25,311	△1,073	19.8	△0.8				
2008年	24,760	△551	19.4	△0.4				
2009年	24,170	△590	19.0	△0.4				
2010年	23,261	△909	18.2	△0.8				
2011年	22,681	△580	17.7	△0.5				
2012年	21,283	△1,398	16.7	△1.0				
2013年	20,495	△788	16.1	△0.6				
2014年	19,615	△880	15.4	△0.7				
2015年	18,280	△1,335	14.4	△1.0				
2016年	17,625	△655	13.9	△0.5				
2017年	16,789	△836	13.3	△0.6				
2018年	15,590	△1,199	12.3	△1.0				
2019年	14,460	△1,130	11.5	△0.8				
2020年	12,739	△1,721	10.1	△1.4				

2020年に、新たに結核患者として登録された者の数（新登録結核患者数）は12,739人で、前年より1,721人(11.9%)減少している。減少率を見ると、2018年から2019年にかけての減少率は7.2%（15,590人→14,460人）であることから、減少幅は4.7ポイントの大幅な拡大となっている。

2020年の罹患率（人口10万対）は10.1であり、前年の11.5より1.4(12.2%)減少している。減少率を見ると、2018年から2019年にかけての減少率は6.5%であることから、減少幅は5.7ポイントの大幅な拡大となっている。

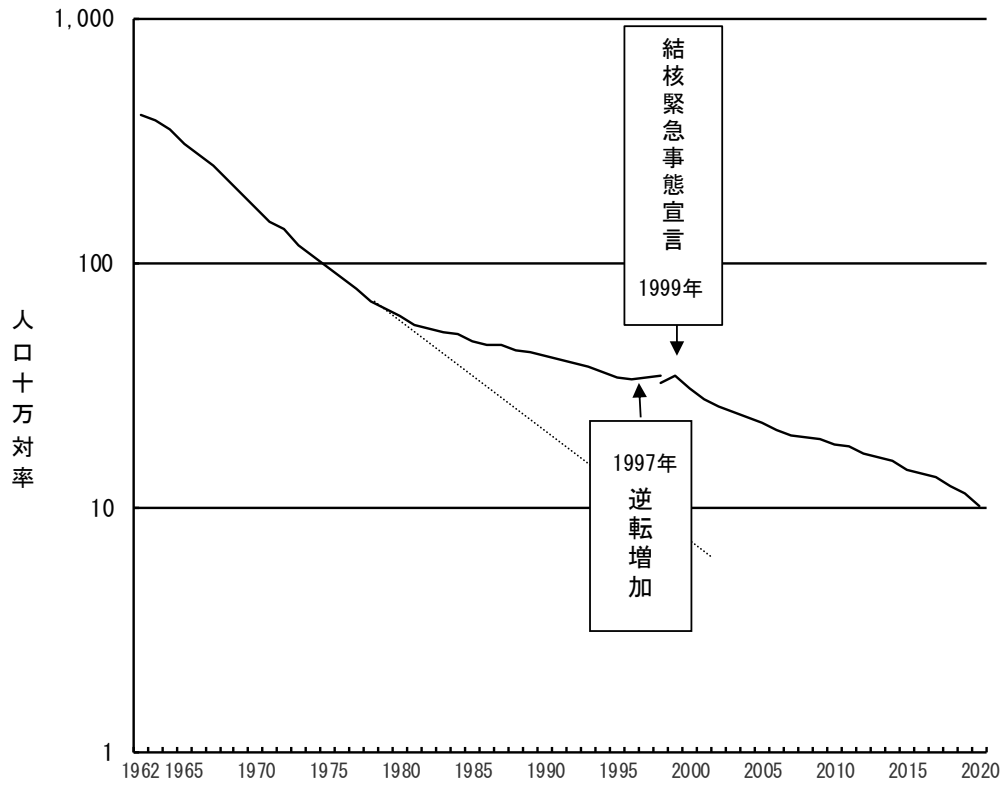
表4-2. 新登録結核患者及び罹患率の年次推移（喀痰塗抹陽性肺結核患者数、再掲）

区分	喀痰塗抹陽性肺結核(新分類) (再掲)		喀痰塗抹陽性 患者の割合 (%/全結核)	塗抹陽性肺結核(旧分類) (再掲)		塗抹陽性患者 の割合 (%/全結核)
	実数/前年比	罹患率 (人口10万対)/前年比		実数/前年比	罹患率 (人口10万対)/前年比	
1992年				15,540	12.5	31.7
1993年				15,210 △330	12.2 △0.3	32.1
1994年				14,777 △433	11.8 △0.4	33.1
1995年				15,103 326	12.0 0.2	35.1
1996年				15,035 △68	11.9 △0.1	35.4
1997年				15,967 932	12.7 0.8	37.4
1998年	13,405	10.6	32.7	16,294 327	12.9 0.2	37.0
1999年	14,482 1,077	11.4 0.8	33.1			
2000年	13,220 △1,262	10.4 △1.0	33.6			
2001年	12,656 △564	9.9 △0.5	35.7			
2002年	11,933 △723	9.4 △0.5	36.4			
2003年	11,857 △76	9.3 △0.1	37.5			
2004年	11,445 △412	9.0 △0.3	38.5			
2005年	11,318 △127	8.9 △0.1	40.0			
2006年	10,492 △826	8.2 △0.7	39.8			
2007年	10,204 △288	8.0 △0.2	40.3			
2008年	9,809 △395	7.7 △0.3	39.6			
2009年	9,675 △134	7.6 △0.1	40.0			
2010年	9,019 △656	7.0 △0.6	38.8			
2011年	8,654 △365	6.8 △0.2	38.2			
2012年	8,237 △417	6.5 △0.3	38.7			
2013年	8,119 △118	6.4 △0.1	39.6			
2014年	7,651 △468	6.0 △0.4	39.0			
2015年	7,131 △520	5.6 △0.4	39.0			
2016年	6,642 △489	5.2 △0.4	37.7			
2017年	6,359 △283	5.0 △0.2	37.9			
2018年	5,781 △578	4.6 △0.4	37.1			
2019年	5,231 △550	4.1 △0.5	36.2			
2020年	4,615 △616	3.7 △0.4	36.2			

喀痰塗抹陽性肺結核の患者数は4,615人で、前年より616人（11.8%）減少している。

喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率（人口10万対）は3.7であり、前年の4.1より0.4減少している。喀痰塗抹陽性肺結核の患者が全体に占める割合は36.2%で、前年と同じである。

図1. 結核罹患率の推移(全結核)



2020年の罹患率（人口10万対）は10.1であり、前年の11.5より1.4(12.2%)減少している。減少率を見ると、2018年から2019年にかけての減少率は6.5%であることから、減少幅は5.7ポイントの大幅な拡大となっている。

表5-1. 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数

( ) 内は構成比

区 分	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
総 数	17,625 (100.0)	16,789 (100.0)	15,590 (100.0)	14,460 (100.0)	12,739 (100.0)
0～4歳	26 (0.1)	31 (0.2)	24 (0.2)	18 (0.1)	27 (0.2)
5～9歳	11 (0.1)	10 (0.1)	6 (0.0)	9 (0.1)	9 (0.1)
10～14歳	22 (0.1)	18 (0.1)	21 (0.1)	11 (0.1)	16 (0.1)
15～19歳	190 (1.1)	148 (0.9)	158 (1.0)	142 (1.0)	75 (0.6)
20～29歳	1,235 (7.0)	1,231 (7.3)	1,273 (8.2)	1,164 (8.0)	1,027 (8.1)
30～39歳	1,004 (5.7)	987 (5.9)	885 (5.7)	767 (5.3)	686 (5.4)
40～49歳	1,228 (7.0)	1,159 (6.9)	1,034 (6.6)	985 (6.8)	741 (5.8)
50～59歳	1,295 (7.3)	1,268 (7.6)	1,150 (7.4)	1,054 (7.3)	924 (7.3)
60～69歳	2,213 (12.6)	2,024 (12.1)	1,704 (10.9)	1,472 (10.2)	1,262 (9.9)
70～79歳	3,407 (19.3)	3,187 (19.0)	2,995 (19.2)	2,810 (19.4)	2,547 (20.0)
80～89歳	5,138 (29.2)	4,822 (28.7)	4,534 (29.1)	4,061 (28.1)	3,686 (28.9)
90歳以上	1,856 (10.5)	1,904 (11.3)	1,806 (11.6)	1,967 (13.6)	1,739 (13.7)

年齢階級別の新登録結核患者数では、0～14歳の小児結核は52人で前年から14人(36.8%)の増加となっている。前年増加となった90歳以上では228人(11.6%)の減少となっている。15歳以上の年齢階級では全て減少となっている。特に、15歳～19歳で67人(47.2%)の減少、40～49歳で244人(24.8%)の減少と大きな減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が28.9%と最も多くなっている。90歳以上でも割合は13.7%となっており増加傾向は続いている。

表5-2. 年次別・年齢階級別 喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数

( ) 内は構成比

区 分	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
総 数	6,642 (100.0)	6,359 (100.0)	5,781 (100.0)	5,231 (100.0)	4,615 (100.0)
0～4歳	0 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
5～9歳	0 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
10～14歳	3 (0.0)	2 (0.0)	3 (0.1)	0 (0.0)	3 (0.1)
15～19歳	47 (0.7)	40 (0.6)	40 (0.7)	38 (0.7)	20 (0.4)
20～29歳	282 (4.2)	289 (4.5)	296 (5.1)	296 (5.7)	255 (5.5)
30～39歳	282 (4.2)	305 (4.8)	259 (4.5)	199 (3.8)	194 (4.2)
40～49歳	386 (5.8)	371 (5.8)	321 (5.6)	308 (5.9)	226 (4.9)
50～59歳	453 (6.8)	449 (7.1)	417 (7.2)	364 (7.0)	307 (6.7)
60～69歳	852 (12.8)	804 (12.6)	693 (12.0)	525 (10.0)	489 (10.6)
70～79歳	1,252 (18.8)	1,238 (19.5)	1,101 (19.0)	1,035 (19.8)	925 (20.0)
80～89歳	2,215 (33.3)	1,995 (31.4)	1,857 (32.1)	1,595 (30.5)	1,454 (31.5)
90歳以上	870 (13.1)	864 (13.6)	793 (13.7)	871 (16.7)	742 (16.1)

年齢階級別の喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数は、0～14歳の小児結核での発生は3人となっている。15歳以上の年齢階級では全て減少となっている。特に、15～19歳で18人(47.4%)、40～49歳で82人(26.6%)が大きな減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が31.5%と最も大きくなっている。

表 5-3. 年次別・年齢階級別 新登録小児結核中の粟粒結核および結核性髄膜炎患者数

区 分	2016年			2017年			2018年			2019年			2020年		
	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発
合計	1	2	1	3	2	1	1	1	0	3	0	0	1	1	1
0～4歳	1	2	1	3	1	1	1	1	0	2	0	0	1	1	1
5～9歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10～14歳	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

合計は小児結核(0～14歳)の合計、粟粒結核と結核性髄膜炎の重複あり

2020年患者の詳細

粟粒結核、結核性髄膜炎併発0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

2019年患者の詳細

粟粒結核 0歳、日本出生1名、BCG接種歴なし。

粟粒結核 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

粟粒結核 12歳、外国出生1名、BCG接種歴不明。

2018年患者の詳細

粟粒結核 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

結核性髄膜炎 0歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。

2017年患者の詳細

粟粒結核、結核性髄膜炎併発0歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。

粟粒結核 0歳、日本出生2名、BCG接種歴なし。

結核性髄膜炎 14歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

2016年患者の詳細

粟粒結核、結核性髄膜炎併発0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

結核性髄膜炎 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

2020年に登録された小児結核患者（15歳未満）のうち、重症結核例である粟粒結核及び結核性髄膜炎患者数は、粟粒結核と結核性髄膜炎を併発した0歳の患者が1人となっている。

表5-4. 年次別・年齢階級別 潜在性結核感染症（LTBI）新登録者数

（ ）内は構成比

区 分	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
総 数	7,477 (100.0)	7,255 (100.0)	7,414 (100.0)	7,684 (100.0)	5,575 (100.0)
0～4歳	419 (5.6)	439 (6.1)	425 (5.7)	411 (5.3)	365 (6.5)
5～9歳	96 (1.3)	119 (1.6)	103 (1.4)	62 (0.8)	58 (1.0)
10～14歳	83 (1.1)	73 (1.0)	69 (0.9)	53 (0.7)	36 (0.6)
15～19歳	162 (2.2)	117 (1.6)	164 (2.2)	124 (1.6)	73 (1.3)
20～29歳	896 (12.0)	799 (11.0)	958 (12.9)	867 (11.3)	514 (9.2)
30～39歳	888 (11.9)	818 (11.3)	801 (10.8)	750 (9.8)	454 (8.1)
40～49歳	1,148 (15.4)	1,050 (14.5)	951 (12.8)	1,025 (13.3)	641 (11.5)
50～59歳	1,200 (16.0)	1,050 (14.5)	1,021 (13.8)	1,145 (14.9)	760 (13.6)
60～69歳	1,261 (16.9)	1,190 (16.4)	1,154 (15.6)	1,147 (14.9)	906 (16.3)
70～79歳	839 (11.2)	992 (13.7)	1,129 (15.2)	1,293 (16.8)	1,033 (18.5)
80歳以上	485 (6.5)	608 (8.4)	639 (8.6)	807 (10.5)	735 (13.2)

2020年に新たに登録された潜在性結核感染症の者の数は5,575人で、前年より2,109人の大きな減少となっている。全ての年齢階級で登録数は減少となっているが、50～59歳の385人(33.6%)、40～49歳の384人(37.5%)、20～29歳の353人(40.7%)が特に大きな減少となっている。



表5-5. 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症（LTBI）  
新登録者数の比

(比: 潜在性結核感染症新登録者数/新登録結核患者数)

区 分	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
総 数	0.4	0.4	0.5	0.5	0.4
0～4歳	16.1	14.2	17.7	22.8	13.5
5～9歳	8.7	11.9	17.2	6.9	6.4
10～14歳	3.8	4.1	3.3	4.8	2.3
15～19歳	0.9	0.8	1.0	0.9	1.0
20～29歳	0.7	0.6	0.8	0.7	0.5
30～39歳	0.9	0.8	0.9	1.0	0.7
40～49歳	0.9	0.9	0.9	1.0	0.9
50～59歳	0.9	0.8	0.9	1.1	0.8
60～69歳	0.6	0.6	0.7	0.8	0.7
70～79歳	0.2	0.3	0.4	0.5	0.4
80歳以上	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1

新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症新登録者数の比は、14歳以下の年齢階級では2.3以上となっており、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。特に0～4歳は13.5となっている。また、20歳以上の年齢階級は全て1を下回っており潜在性結核感染症新登録患者数の方が少なくなっている。

表5-6. 年次別・職業別 潜在性結核感染症（LTBI）新登録者数

（ ）内は構成比

区 分	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2020/2019年
総 数	7,477 (100.0)	7,255 (100.0)	7,414 (100.0)	7,684 (100.0)	5,575 (100.0)	0.7
看護師・保健師	940 (12.6)	856 (11.8)	786 (10.6)	749 (9.7)	480 (8.6)	0.6
医師	169 (2.3)	129 (1.8)	141 (1.9)	156 (2.0)	98 (1.8)	0.6
その他医療職・介護職	750 (10.0)	797 (11.0)	699 (9.4)	776 (10.1)	502 (9.0)	0.6
接客業等	206 (2.8)	148 (2.0)	175 (2.4)	180 (2.3)	142 (2.5)	0.8
教員・保育士	74 (1.0)	68 (0.9)	87 (1.2)	79 (1.0)	53 (1.0)	0.7
上記以外の常用勤労者	1,392 (18.6)	1,408 (19.4)	1,405 (19.0)	1,509 (19.6)	944 (16.9)	0.6
上記以外の臨時雇、日雇	359 (4.8)	271 (3.7)	267 (3.6)	255 (3.3)	143 (2.6)	0.6
上記以外の自営業・自由業	230 (3.1)	207 (2.9)	235 (3.2)	244 (3.2)	181 (3.2)	0.7
家事従事者	144 (1.9)	116 (1.6)	108 (1.5)	118 (1.5)	67 (1.2)	0.6
無職・その他	2,088 (27.9)	2,142 (29.5)	2,265 (30.6)	2,551 (33.2)	2,149 (38.5)	0.8
乳幼児	343 (4.6)	318 (4.4)	319 (4.3)	324 (4.2)	299 (5.4)	0.9
保育園・幼稚園児・小中学生	243 (3.2)	295 (4.1)	248 (3.3)	180 (2.3)	136 (2.4)	0.8
高校生以上の生徒学生等	410 (5.5)	339 (4.7)	535 (7.2)	421 (5.5)	246 (4.4)	0.6
不明	129 (1.7)	161 (2.2)	144 (1.9)	142 (1.8)	135 (2.4)	1.0

職業別では、2020年の潜在性結核感染症新登録者数における医療職（看護師・保健師、医師、その他の医療職）の数の割合は19.4%で、最近5年間で最も低い割合となっている。一方、無職・その他の割合が、前年の33.2%から38.5%に増加となっている。乳幼児、保育園・幼稚園児、小中学生、高校生以上の生徒学生の割合は12.0%から12.2%にわずかな増加となっている。

表5-7. 年次別・年齢階級別 外国生まれ新登録結核患者数

( ) 内は新登録に占める割合

区 分	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
総 数	1,338 (7.6)	1,530 (9.1)	1,667 (10.7)	1,541 (10.7)	1,411 (11.1)
0～4歳	2 (7.7)	1 (3.2)	3 (12.5)	2 (11.1)	2 (7.4)
5～9歳	3 (27.3)	4 (40.0)	1 (16.7)	5 (55.6)	4 (44.4)
10～14歳	7 (31.8)	6 (33.3)	8 (38.1)	3 (27.3)	3 (18.8)
15～19歳	82 (43.2)	81 (54.7)	87 (55.1)	78 (54.9)	40 (53.3)
20～29歳	712 (57.7)	774 (62.9)	896 (70.4)	851 (73.1)	732 (71.3)
30～39歳	258 (25.7)	349 (35.4)	344 (38.9)	283 (36.9)	330 (48.1)
40～49歳	139 (11.3)	143 (12.3)	151 (14.6)	147 (14.9)	141 (19.0)
50～59歳	66 (5.1)	89 (7.0)	91 (7.9)	76 (7.2)	83 (9.0)
60～69歳	33 (1.5)	48 (2.4)	35 (2.1)	41 (2.8)	44 (3.5)
70～79歳	15 (0.4)	17 (0.5)	23 (0.8)	27 (1.0)	19 (0.7)
80歳以上	21 (0.3)	18 (0.3)	28 (0.4)	28 (0.5)	13 (0.0)

外国生まれ新登録結核患者数は、前年から130人減少して1,411人となっている。しかし、新登録結核患者における外国生まれの者の割合は11.1%と前年の10.7%から0.4ポイントの増加となっている。20～29歳では外国生まれ新登録結核患者数は前年に比べて119人の減少で732人となり、新登録結核患者における外国生まれの者の割合は71.3%と前年から1.8ポイントの減少となっているが、依然として高い割合となっている。30～39歳では外国生まれ新登録結核患者数は47人増加して330人となり、外国生まれの者の割合も前年の36.9%から48.1%と大きく増加している。

表5-8. 年次別・年齢階級別 外国生まれ新登録結核患者数（入国5年以内、再掲）

（ ）内は全外国生まれ新登録患者に占める割合

区 分	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
総 数	608 (45.4)	738 (48.2)	882 (52.9)	836 (54.3)	669 (47.4)
0～4歳	1 (50.0)	1 (100.0)	3 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
5～9歳	0 (0.0)	3 (75.0)	1 (100.0)	5 (100.0)	2 (50.0)
10～14歳	5 (71.4)	2 (33.3)	4 (50.0)	1 (33.3)	0 (0.0)
15～19歳	44 (53.7)	54 (66.7)	59 (67.8)	62 (79.5)	23 (57.5)
20～29歳	432 (60.7)	491 (63.4)	617 (68.9)	588 (69.1)	458 (62.6)
30～39歳	89 (34.5)	140 (40.1)	134 (39.0)	127 (44.9)	135 (40.9)
40～49歳	20 (14.4)	28 (19.6)	35 (23.2)	32 (21.8)	29 (20.6)
50～59歳	11 (16.7)	5 (5.6)	9 (9.9)	7 (9.2)	10 (12.0)
60～69歳	2 (6.1)	12 (25.0)	10 (28.6)	8 (19.5)	11 (25.0)
70～79歳	4 (26.7)	2 (11.8)	6 (26.1)	5 (18.5)	1 (5.3)
80歳以上	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (14.3)	1 (3.6)	0 (0.0)

外国生まれ新登録結核患者のうち、入国5年以内の者は、前年の836人から167人減少し669人となっている。特に20～29歳の年齢階級では、前年から130人減少して458人となっている。

表5-9. 年次別・年齢階級別 日本生まれ新登録結核患者数

( ) 内は構成比

区 分	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
総 数	15,504 (100.0)	14,533 (100.0)	13,570 (100.0)	12,567 (100.0)	11,080 (100.0)
0～4歳	24 (0.2)	28 (0.2)	21 (0.2)	16 (0.1)	25 (0.2)
5～9歳	8 (0.1)	6 (0.0)	5 (0.0)	4 (0.0)	5 (0.0)
10～14歳	15 (0.1)	11 (0.1)	13 (0.1)	8 (0.1)	13 (0.1)
15～19歳	102 (0.7)	63 (0.4)	70 (0.5)	62 (0.5)	35 (0.3)
20～29歳	500 (3.2)	435 (3.0)	367 (2.7)	307 (2.4)	287 (2.6)
30～39歳	719 (4.6)	609 (4.2)	527 (3.9)	476 (3.8)	351 (3.2)
40～49歳	1,033 (6.7)	961 (6.6)	864 (6.4)	825 (6.6)	588 (5.3)
50～59歳	1,164 (7.5)	1,133 (7.8)	1,032 (7.6)	952 (7.6)	827 (7.5)
60～69歳	2,060 (13.3)	1,880 (12.9)	1,629 (12.0)	1,388 (11.0)	1,197 (10.8)
70～79歳	3,240 (20.9)	3,012 (20.7)	2,907 (21.4)	2,720 (21.6)	2,478 (22.4)
80～89歳	4,889 (31.5)	4,594 (31.6)	4,402 (32.4)	3,929 (31.3)	3,578 (32.3)
90歳以上	1,750 (11.3)	1,801 (12.4)	1,733 (12.8)	1,880 (15.0)	1,696 (15.3)

(注) 出生国については日本生れと外国生まれの他に出生国不明がある。

日日本生まれ新登録結核患者数は、前年の12,567人から1,487人減少して11,080人となっている。年齢階級別では80～89歳の患者数が最も多く3,578人で日本生まれ新登録結核患者の32.3%となっている。14歳以下の小児を除く年齢階級では、新登録結核患者数は全て減少となっている。減少数が最も大きかったのは80～89歳で351人の減少となっている。減少割合は15～19歳が27人の減少で43.5%と最も大きくなっている。90歳以上は184人減少して1,696人となっている。

表6-1. 新登録結核患者数 都道府県別・年次推移

都道府県名	新登録結核患者数（人）					備考	（再掲）菌喀痰塗抹陽性肺結核患者数（人）				
	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年		2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
全国	17,625	16,789	15,590	14,460	12,739		6,642	6,359	5,781	5,231	4,615
北海道	518	461	451	389	380		163	170	154	129	153
青森	171	154	127	112	120	↑	72	67	50	53	63
岩手	131	110	105	83	74		54	30	47	30	30
宮城	185	167	166	168	135		87	54	63	61	57
秋田	86	80	74	66	63		43	37	31	27	26
山形	80	81	65	83	70		22	35	22	36	30
福島	163	138	183	128	122		61	62	68	55	40
茨城	354	323	304	299	287		115	127	125	115	87
栃木	218	228	172	188	179		88	99	58	89	55
群馬	183	184	171	156	152		68	52	47	48	45
埼玉	979	931	856	786	675		358	363	314	288	239
千葉	906	757	755	697	611		312	270	270	246	222
東京	2,340	2,213	1,970	1,810	1,589		848	807	744	624	597
神奈川	1,192	1,143	1,024	987	808		424	416	374	348	303
新潟	216	190	178	190	147		81	72	64	50	37
富山	117	118	107	101	71		41	30	32	27	26
石川	126	138	110	100	99		41	56	32	37	30
福井	87	90	76	69	63		27	39	30	18	19
山梨	72	68	77	77	48		28	31	20	38	12
長野	165	168	186	156	138		72	72	82	66	52
岐阜	329	313	279	290	265		114	114	107	102	82
静岡	425	424	393	357	348		179	148	142	124	114
愛知	1,270	1,074	1,126	1,024	924		478	401	399	339	308
三重	241	219	198	167	175	↑	84	87	79	67	54
滋賀	152	166	150	149	122		55	57	49	47	44
京都	410	410	363	354	292		155	172	136	130	112
大阪	1,945	1,881	1,805	1,619	1,400		837	796	715	660	550
兵庫	844	874	827	765	641		331	313	324	285	246
奈良	191	171	156	186	133		75	82	63	77	51
和歌山	131	139	132	117	110		59	58	52	50	55
鳥取	66	75	51	43	34		24	30	19	13	11
島根	87	73	78	54	66	↑	24	31	25	20	26
岡山	208	212	187	186	153		83	88	65	67	50
広島	324	321	290	284	254		120	122	115	107	103
山口	178	171	160	154	141		45	53	52	41	40
徳島	120	118	106	96	97	↑	44	36	38	39	35
香川	138	139	133	99	95		58	55	35	32	22
愛媛	133	147	135	112	122	↑	44	56	46	41	54
高知	92	94	74	77	49		39	38	25	27	25
福岡	720	732	594	614	512		242	280	214	196	163
佐賀	106	102	80	108	87		49	47	37	47	36
長崎	218	227	222	174	163		79	71	74	53	47
熊本	232	239	201	175	170		98	80	81	61	58
大分	185	147	169	151	107		88	66	81	69	50
宮崎	143	120	97	101	96		66	46	46	43	41
鹿児島	245	233	236	183	166		94	76	78	59	53
沖縄	203	226	191	176	186	↑	73	67	57	50	62
指定都市（再掲）											
札幌	160	158	155	135	134		46	47	44	44	46
仙台	87	98	75	76	66		37	31	28	31	25
さいたま	182	174	162	143	109		74	71	59	47	37
千葉	158	128	121	109	93		57	57	47	44	43
横浜	538	509	441	412	357		183	168	151	148	126
川崎	249	217	196	184	153		85	92	66	59	58
相模原	57	70	60	57	53		23	28	26	23	23
新潟	79	77	72	76	52		30	33	24	20	17
静岡	97	96	83	72	74	↑	45	30	39	25	31
浜松	105	88	86	86	96	↑	41	29	27	19	32
名古屋	494	419	437	422	378		187	145	165	159	140
京都	246	235	227	221	173		90	101	91	85	68
大阪	887	880	798	701	578		394	368	333	304	234
堺	163	138	156	154	134		69	64	67	75	58
神戸	285	302	258	262	213		108	109	73	80	81
岡山	77	80	73	72	59		28	34	21	24	16
広島	109	109	108	99	94		38	40	42	36	38
北九州	173	205	136	137	123		60	88	44	31	31
福岡	192	191	165	205	149		72	74	65	72	50
熊本	85	82	76	73	64		29	22	32	30	23
東京都特別区	1,774	1,679	1,525	1,381	1,257		643	603	573	478	470

(注)備考欄において「↑」は2020年の新登録数が2019年を上回ったものを表す。

都道府県別の新登録結核患者数は、47都道府県のうち6の県（青森県、三重県、島根県、徳島県、愛媛県、沖縄県）で増加している。新登録結核患者数が最も多いのは東京都の1,589人で、次いで大阪府の1,400人となっている。

表6-2. 結核罹患率 都道府県別・年次推移

都道府県名	罹患率（人口10万対）					備考	（再掲）菌略痰塗抹陽性肺結核罹患率（人口10万対）				
	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年		2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
全 国	13.9	13.3	12.3	11.5	10.1		5.2	5.0	4.6	4.1	3.7
北海道	9.7	8.7	8.5	7.4	7.3		3.0	3.2	2.9	2.5	2.9
青 森	13.2	12.0	10.1	9.0	9.7	↑	5.6	5.2	4.0	4.3	5.1
岩 手	10.3	8.8	8.5	6.8	6.1	○3	4.3	2.4	3.8	2.4	2.5
宮 城	7.9	7.2	7.2	7.3	5.9	○1	3.7	2.3	2.7	2.6	2.5
秋 田	8.5	8.0	7.5	6.8	6.6		4.3	3.7	3.2	2.8	2.7
山 形	7.2	7.4	6.0	7.7	6.6	○5	2.0	3.2	2.0	3.3	2.8
福 島	8.6	7.3	9.8	6.9	6.7		3.2	3.3	3.6	3.0	2.2
茨 城	12.2	11.2	10.6	10.5	10.0		4.0	4.4	4.3	4.0	3.0
栃 木	11.1	11.7	8.8	9.7	9.3		4.5	5.1	3.0	4.6	2.8
群 馬	9.3	9.4	8.8	8.0	7.8		3.5	2.7	2.4	2.5	2.3
埼 玉	13.4	12.7	11.7	10.7	9.2		4.9	5.0	4.3	3.9	3.3
千 葉	14.5	12.1	12.1	11.1	9.7		5.0	4.3	4.3	3.9	3.5
東 京	17.2	16.1	14.3	13.0	11.3		6.2	5.9	5.4	4.5	4.2
神奈川	13.0	12.5	11.2	10.7	8.7		4.6	4.5	4.1	3.8	3.3
新 潟	9.4	8.4	7.9	8.5	6.7		3.5	3.2	2.8	2.2	1.7
富 山	11.0	11.2	10.2	9.7	6.9		3.9	2.8	3.0	2.6	2.5
石 川	10.9	12.0	9.6	8.8	8.7		3.6	4.9	2.8	3.3	2.6
福 井	11.1	11.6	9.8	9.0	8.2		3.5	5.0	3.9	2.3	2.5
山 梨	8.7	8.3	9.4	9.5	5.9	○2	3.4	3.8	2.4	4.7	1.5
長 野	7.9	8.1	9.0	7.6	6.7		3.4	3.5	4.0	3.2	2.5
岐 阜	16.3	15.6	14.0	14.6	13.4	△3	5.6	5.7	5.4	5.1	4.1
静 岡	11.5	11.5	10.7	9.8	9.6		4.9	4.0	3.9	3.4	3.1
愛 知	16.9	14.3	14.9	13.6	12.2		6.4	5.3	5.3	4.5	4.1
三 重	13.3	12.2	11.1	9.4	9.9	↑	4.6	4.8	4.4	3.8	3.0
滋 賀	10.8	11.8	10.6	10.5	8.6		3.9	4.0	3.5	3.3	3.1
京 都	15.7	15.8	14.0	13.7	11.3		5.9	6.6	5.2	5.0	4.3
大 阪	22.0	21.3	20.5	18.4	15.8	△1	9.5	9.0	8.1	7.5	6.2
兵 庫	15.3	15.9	15.1	14.0	11.7		6.0	5.7	5.9	5.2	4.5
奈 良	14.1	12.7	11.7	14.0	10.0		5.5	6.1	4.7	5.8	3.8
和歌山	13.7	14.7	14.1	12.6	11.9		6.2	6.1	5.6	5.4	6.0
鳥 取	11.6	13.3	9.1	7.7	6.1	○4	4.2	5.3	3.4	2.3	2.0
島 根	12.6	10.7	11.5	8.0	9.8	↑	3.5	4.5	3.7	3.0	3.9
岡 山	10.9	11.1	9.9	9.8	8.1		4.3	4.6	3.4	3.5	2.6
広 島	11.4	11.3	10.3	10.1	9.1		4.2	4.3	4.1	3.8	3.7
山 口	12.8	12.4	11.7	11.3	10.5		3.2	3.8	3.8	3.0	3.0
徳 島	16.0	15.9	14.4	13.2	13.5	↑△2	5.9	4.8	5.2	5.4	4.9
香 川	14.2	14.4	13.8	10.4	10.0		6.0	5.7	3.6	3.3	2.3
愛 媛	9.7	10.8	10.0	8.4	9.1	↑	3.2	4.1	3.4	3.1	4.0
高 知	12.8	13.2	10.5	11.0	7.1		5.4	5.3	3.5	3.9	3.6
福 岡	14.1	14.3	11.6	12.0	10.0		4.7	5.5	4.2	3.8	3.2
佐 賀	12.8	12.4	9.8	13.3	10.7		5.9	5.7	4.5	5.8	4.4
長 崎	15.9	16.8	16.6	13.1	12.4	△5	5.8	5.2	5.5	4.0	3.6
熊 本	13.1	13.5	11.4	10.0	9.8		5.5	4.5	4.6	3.5	3.3
大 分	16.0	12.8	14.8	13.3	9.5		7.6	5.7	7.1	6.1	4.4
宮 崎	13.0	11.0	9.0	9.4	9.0		6.0	4.2	4.3	4.0	3.8
鹿児島	15.0	14.3	14.6	11.4	10.4		5.7	4.7	4.8	3.7	3.3
沖 縄	14.1	15.7	13.2	12.1	12.7	↑△4	5.1	4.6	3.9	3.4	4.2
指定都市（再掲）											
札 幌	8.2	8.0	7.9	6.9	6.8		2.3	2.4	2.2	2.2	2.3
仙 台	8.0	9.0	6.9	7.0	6.0		3.4	2.9	2.6	2.8	2.3
さいたま	14.2	13.5	12.5	10.9	8.2		5.8	5.5	4.5	3.6	2.8
千 葉	16.2	13.1	12.4	11.1	9.5		5.9	5.8	4.8	4.5	4.4
横 浜	14.4	13.6	11.8	11.0	9.4		4.9	4.5	4.0	3.9	3.3
川 崎	16.7	14.4	12.9	12.0	9.9		5.7	6.1	4.4	3.9	3.8
相模原	7.9	9.7	8.3	7.9	7.3		3.2	3.9	3.6	3.2	3.2
新 潟	9.8	9.6	9.0	9.5	6.6		3.7	4.1	3.0	2.5	2.2
静 岡	13.7	13.6	11.8	10.3	10.7	↑	6.3	4.2	5.5	3.6	4.5
浜 松	13.2	11.1	10.8	10.9	12.1	↑	5.1	3.6	3.4	2.4	4.0
名古屋	21.4	18.1	18.8	18.1	16.2		8.1	6.3	7.1	6.8	6.0
京 都	16.7	16.0	15.5	15.1	11.8		6.1	6.9	6.2	5.8	4.6
大 阪	32.8	32.4	29.3	25.6	21.0		14.6	13.6	12.2	11.1	8.5
堺	19.5	16.5	18.6	18.6	16.2		8.2	7.7	8.0	9.1	7.0
神 戸	18.6	19.7	16.9	17.2	13.9		7.0	7.1	4.8	5.3	5.3
岡 山	10.9	11.3	10.3	10.2	8.1		4.0	4.8	3.0	3.4	2.2
広 島	9.1	9.1	9.0	8.3	7.8		3.2	3.3	3.5	3.0	3.2
北九州	18.1	21.6	14.4	14.6	13.1		6.3	9.3	4.7	3.3	3.3
福 岡	12.4	12.2	10.4	12.9	9.2		4.6	4.7	4.1	4.5	3.1
熊 本	11.5	11.1	10.3	9.9	8.7		3.9	3.0	4.3	4.1	3.1
東京都特別区	18.9	17.8	16.0	14.3	12.9		6.9	6.4	6.0	5.0	4.8

注1) 備考欄において「↑」は2020年の罹患率が2019年を上回ったもの、「○1」は罹患率下位1位を、「△1」は罹患率上位1位を表す。

同率の場合は小数点2位以下で順位を決定

注2) 太枠は2020年の罹患率が結核低蔓延の水準である10を下回った都道府県および政令指定都市。



都道府県別の結核罹患率は、47都道府県のうち6の県（青森県、三重県、島根県、徳島県、愛媛県、沖縄県）で前年から増加している。一方、結核低まん延の水準である罹患率が10を下回った都道府県の数も、前年の22から増加して30となっている。最も低い宮城県は5.9となっている。

表7. 年末時結核登録者数及び有病率の年次推移

区 分	総数／前年比		活 動 性 全 結 核			
			患者数／前年比		有病率(人口10万対) /前年比	
1994年	181,470	△10,114	70,781	△5,894	56.6	△4.9
1995年	168,581	△12,889	65,167	△5,614	51.9	△4.7
1996年	132,958	△35,623	59,760	△5,407	47.5	△4.4
1997年	121,762	△11,196	55,409	△4,351	43.9	△3.6
1998年	107,058		49,205		38.9	
1999年	104,813	△2,245	48,888	△317	38.6	△0.3
2000年	99,481	△5,332	41,971	△6,917	33.1	△5.5
2001年	91,395	△8,086	36,288	△5,683	28.5	△4.6
2002年	82,974	△8,421	32,396	△3,892	25.4	△3.1
2003年	77,211	△5,763	29,717	△2,679	23.3	△2.1
2004年	72,079	△5,132	26,945	△2,772	21.1	△2.2
2005年	68,508	△3,571	23,969	△2,976	18.8	△2.3
2006年	65,695	△2,813	21,976	△1,993	17.2	△1.6
2007年	63,556	△2,139	20,637	△1,339	16.2	△1.0
2008年	62,244	△1,312	20,021	△616	15.7	△0.5
2009年	59,573	△2,671	18,915	△1,106	14.8	△0.9
2010年	55,573	△4,000	17,927	△988	14.0	△0.8
2011年	55,196	△377	17,264	△663	13.5	△0.5
2012年	52,173	△3,023	14,858	△2,406	11.7	△1.8
2013年	49,814	△2,359	13,957	△901	11.0	△0.7
2014年	47,845	△1,969	13,513	△444	10.6	△0.4
2015年	44,888	△2,957	12,534	△979	9.9	△0.7
2016年	42,299	△2,589	11,717	△817	9.2	△0.7
2017年	39,670	△2,629	11,097	△620	8.8	△0.4
2018年	37,134	△2,536	10,448	△649	8.3	△0.5
2019年	34,523	△2,611	9,695	△753	7.7	△0.6
2020年	31,551	△2,972	8,640	△1,055	6.8	△0.9

1998年以降は新分類

2020年末現在の結核登録者数は31,551人と、前年の34,523人より2,972人減少している。そのうち、活動性全結核の患者数は8,640人と、前年より1,055人減少している。また、2020年末の結核有病率は、前年の7.7から0.9減少し、6.8となっている。

表 8. 年次別 前回治療開始年代別再治療者数（割合）

前回治療開始年	2016年登録者	2017年登録者	2018年登録者	2019年登録者	2020年登録者
総 数	908 (100%)	839 (100%)	732 (100%)	667 (100%)	546 (100%)
1940年代以前	61 (6.7)	46 (5.5)	36 (4.9)	27 (4.0)	17 (3.1)
1950年代	123 (13.5)	106 (12.6)	79 (10.8)	80 (12.0)	65 (11.9)
1960年代	50 (5.5)	61 (7.3)	57 (7.8)	42 (6.3)	31 (5.7)
1970年代	30 (3.3)	28 (3.3)	19 (2.6)	24 (3.6)	16 (2.9)
1980年代	29 (3.2)	29 (3.5)	14 (1.9)	21 (3.1)	12 (2.2)
1990年代	48 (5.3)	43 (5.1)	32 (4.4)	35 (5.2)	25 (4.6)
2000年代	137 (15.1)	94 (11.2)	89 (12.2)	67 (10.0)	42 (7.7)
2010年代以降	430 (47.4)	432 (51.5)	406 (55.5)	371 (55.6)	338 (61.9)
(再掲) 2010年代の再治療者数					
2010年	28 (6.5)	33 (7.6)	21 (5.2)	13 (3.5)	7 (2.1)
2011年	32 (7.4)	18 (4.2)	18 (4.4)	12 (3.2)	14 (4.1)
2012年	45 (10.5)	25 (5.8)	24 (5.9)	19 (5.1)	17 (5.0)
2013年	76 (17.7)	40 (9.3)	29 (7.1)	20 (5.4)	9 (2.7)
2014年	94 (21.9)	64 (14.8)	33 (8.1)	20 (5.4)	13 (3.8)
2015年	113 (26.3)	103 (23.8)	57 (14.0)	34 (9.2)	21 (6.2)
2016年	42 (9.8)	113 (26.2)	95 (23.4)	60 (16.2)	32 (9.5)
2017年	-	36 (8.3)	98 (24.1)	82 (22.1)	42 (12.4)
2018年	-	-	31 (7.6)	83 (22.4)	75 (22.2)
2019年	-	-	-	28 (7.5)	75 (22.2)
2020年				-	33 (9.8)

(注) 前回治療開始年は、登録情報あるいは本人・家族等への問診による。  
 対象は 2016～2020年新登録者で治療歴が再治療の患者。前回治療年が今回の登録年に近い者には、「登録中の再登録」による者が多いと推察される。

2020年新登録結核患者のうちの再治療者は、前年の667人から121人減少して546人となっている。このうち、前回治療年が2010年以降の者は338人と再治療者のうち61.9%となっている。

表9-1. 発病から初診までの期間が2か月以上の割合  
有症状肺結核

	発病～初診までの期間が 2か月以上の割合(%)
2002年	19.3
2003年	18.8
2004年	18.8
2005年	18.2
2006年	19.4
2007年	18.0
2008年	18.2
2009年	17.9
2010年	18.3
2011年	18.6
2012年	18.7
2013年	18.1
2014年	18.8
2015年	20.0
2016年	19.7
2017年	20.8
2018年	20.6
2019年	20.4
2020年	19.1

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	発病～初診までの期間が 2か月以上の割合(%)
2002年	34.2
2003年	32.3
2004年	31.6
2005年	31.4
2006年	33.2
2007年	32.1
2008年	32.3
2009年	30.7
2010年	32.6
2011年	32.9
2012年	33.7
2013年	31.5
2014年	38.0
2015年	37.1
2016年	33.3
2017年	35.0
2018年	34.5
2019年	34.4
2020年	27.5

2020年の新登録肺結核患者のうち有症状の者の中で、受診が遅れた（症状発現から受診までの期間が2か月以上）患者の割合は、前年から1.3ポイント減少して19.1%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、受診が遅れた患者の割合は27.5%で6.9ポイントの大きな減少となっている。

表9-2. 初診から診断（登録）までの期間が1か月以上の割合

有症状肺結核

	初診～診断までの期間が 1か月以上の割合(%)
2002年	27.2
2003年	26.0
2004年	25.0
2005年	25.7
2006年	24.3
2007年	21.7
2008年	19.9
2009年	20.4
2010年	22.6
2011年	22.7
2012年	22.0
2013年	22.1
2014年	21.6
2015年	21.5
2016年	22.0
2017年	21.7
2018年	22.0
2019年	21.9
2020年	20.9

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	初診～診断までの期間が 1か月以上の割合(%)
2002年	15.1
2003年	14.6
2004年	14.1
2005年	14.6
2006年	13.9
2007年	13.2
2008年	10.6
2009年	10.9
2010年	13.6
2011年	14.8
2012年	15.0
2013年	13.9
2014年	13.7
2015年	13.6
2016年	16.1
2017年	14.7
2018年	15.7
2019年	15.2
2020年	14.3

2002年～2006年までは初診から登録までの期間、2007年以降は初診から診断までの期間

診断が遅れた（受診から結核の診断までの期間が1か月以上）患者の割合は、20.9%となっている。

表9-3. 発病から診断（登録）までの期間が3か月以上の割合

有症状肺結核

	発病～診断までの期間が 3か月以上の割合(%)
2002年	21.5
2003年	21.0
2004年	20.3
2005年	19.7
2006年	20.7
2007年	18.5
2008年	18.1
2009年	18.2
2010年	19.6
2011年	19.4
2012年	19.6
2013年	18.7
2014年	19.0
2015年	20.4
2016年	19.6
2017年	21.2
2018年	20.7
2019年	21.7
2020年	19.7

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	発病～診断までの期間が 3か月以上の割合(%)
2002年	30.3
2003年	29.3
2004年	28.2
2005年	28.7
2006年	29.5
2007年	26.9
2008年	27.0
2009年	26.9
2010年	28.4
2011年	29.8
2012年	30.5
2013年	29.0
2014年	32.9
2015年	35.5
2016年	32.6
2017年	33.6
2018年	30.6
2019年	33.3
2020年	27.6

2002年～2006年までは発病から登録までの期間、2007年以降は発病から診断までの期間

発見が遅れた（症状発現から結核の診断までの期間が3か月以上）患者の割合は、19.7%となっている。

表10. 年次別 新登録肺結核培養陽性結核患者の薬剤感受性検査結果

( ) 内は構成比

区 分	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
新登録肺結核患者数	13,608	13,011	12,033	11,094	9,446
培養陽性患者数	9,878 (100.0)	9,580 (100.0)	9,016 (100.0)	8,110 (100.0)	6,645 (100.0)
INH, RFP両剤耐性	49 (0.5)	52 (0.5)	55 (0.6)	44 (0.5)	46 (0.7)
(再掲) INH, RFP両剤耐性のうち外国出生患者	15	24	29	21	23
上記以外でINH耐性含む	320 (3.2)	331 (3.5)	322 (3.6)	315 (3.9)	251 (3.8)
上記以外でRFP耐性含む	25 (0.3)	28 (0.3)	32 (0.4)	21 (0.3)	14 (0.2)
その他耐性	347 (3.5)	442 (4.6)	372 (4.1)	339 (4.2)	268 (4.0)
HRSEすべてに感受性	6,939 (70.2)	6,981 (72.9)	6,734 (74.7)	5,899 (72.7)	4,583 (69.0)
HR感受性その他不明	52 (0.5)	57 (0.6)	55 (0.6)	40 (0.5)	47 (0.7)
未実施・他・不明	2,146 (21.7)	1,689 (17.6)	1,446 (16.0)	1,452 (17.9)	1,436 (21.6)
(再掲)薬剤感受性検査結果判明者	7,732 (78.3)	7,891 (82.4)	7,570 (84.0)	6,658 (82.1)	5,209 (78.4)
(再掲) 薬剤感受性検査結果判明者					
培養陽性患者数	7,732 (100.0)	7,891 (100.0)	7,570 (100.0)	6,658 (100.0)	5,209 (100.0)
INH, RFP両剤耐性	49 (0.6)	52 (0.7)	55 (0.7)	44 (0.7)	46 (0.9)
上記以外でINH耐性含む	320 (4.1)	331 (4.2)	322 (4.3)	315 (4.7)	251 (4.8)
上記以外でRFP耐性含む	25 (0.3)	28 (0.4)	32 (0.4)	21 (0.3)	14 (0.3)
その他耐性	347 (4.5)	442 (5.6)	372 (4.9)	339 (5.1)	268 (5.1)
HRSEすべてに感受性	6,939 (89.7)	6,981 (88.5)	6,734 (89.0)	5,899 (88.6)	4,583 (88.0)
HR感受性その他不明	52 (0.7)	57 (0.7)	55 (0.7)	40 (0.6)	47 (0.9)

INH, RFP両剤感受性検査結果判明者を薬剤感受性検査結果判明とした。

2020年の新登録肺結核培養陽性結核患者6,645人のうち、薬剤感受性検査結果が判明した者(INH、RFP両剤感受性検査結果判明者)は5,209人で、割合は78.4%となり、前年の82.1%から3.7ポイント減少となっている。このうち、多剤耐性肺結核患者数(INH, RFP両剤耐性の者)は46人で、前年より2人増加となっている。新登録肺結核培養陽性結核患者の多剤耐性結核割合は0.7%で前年の0.5%から0.2ポイント増加となっている。また、薬剤感受性検査結果が判明した者のうち、主要4剤(HRSE)全ての薬剤に対し感受性のある患者の割合は88.0%となっている。

表11. 年次別 新登録結核患者の糖尿病合併あるいはH I V感染

( ( ) 内は構成比)

区 分	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
新登録結核患者数	17,625 (100.0)	16,789 (100.0)	15,590 (100.0)	14,460 (100.0)	12,739 (100.0)
糖尿病ありの者	2,509 (14.2)	2,368 (14.1)	2,210 (14.2)	2,105 (14.6)	1,883 (14.8)
なしの者	13,277 (75.3)	12,576 (74.9)	11,630 (74.6)	10,680 (73.9)	9,117 (71.6)
不明の者	1,839 (10.4)	1,845 (11.0)	1,750 (11.2)	1,675 (11.6)	1,739 (13.7)
H I V 検査実施陽性者	44 (0.2)	34 (0.2)	44 (0.3)	29 (0.2)	31 (0.2)
H I V 検査実施陰性者	1,556 (8.8)	1,454 (8.7)	1,251 (8.0)	975 (6.7)	846 (6.6)
H I V 検査未実施者	4,933 (28.0)	4,753 (28.3)	4,757 (30.5)	4,942 (34.2)	4,292 (33.7)
不明の者	11,092 (62.9)	10,548 (62.8)	9,538 (61.2)	8,514 (58.9)	7,570 (59.4)

2020年の新登録結核患者のうち、糖尿病合併患者は1,883人で、新登録結核患者の14.8%となっている。また、HIV検査を実施した患者は877人で、新登録結核患者の6.8%にあたり、このうちHIV陽性は31人で、新登録結核患者の0.2%となっている。

表12-1. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数 (看護師・保健師)

( ( ) 内は新登録に占める割合)

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
総 数	191 (1.1)	216 (1.3)	168 (1.1)	152 (1.1)	123 (1.0)
15～19歳	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
20～29歳	24 (1.9)	46 (3.7)	26 (2.0)	20 (1.7)	15 (1.5)
30～39歳	53 (5.3)	59 (6.0)	38 (4.3)	27 (3.5)	36 (5.2)
40～49歳	47 (3.8)	54 (4.7)	58 (5.6)	45 (4.6)	29 (3.9)
50～59歳	44 (3.4)	43 (3.4)	29 (2.5)	36 (3.4)	28 (3.0)
60～69歳	18 (0.8)	14 (0.7)	16 (0.9)	20 (1.4)	12 (1.0)
70～79歳	4 (0.1)	0 (0.0)	1 (0.0)	4 (0.1)	2 (0.1)
80歳以上	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)

2020年の新登録結核患者のうち、看護師・保健師からの登録患者は123人で、前年の152人から29人の減少となっている。新登録結核患者のうちの割合は1.0%と前年から0.1ポイント減少となっている。年齢階級別では、30～39歳が最も多く前年の27人から9人増加して36人となっており、同年齢階級新登録結核患者の5.2%となっている。



表12-2. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（医師）

（ ）内は新登録に占める割合

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
総数	40 (0.2)	38 (0.2)	34 (0.2)	39 (0.3)	33 (0.3)
20～29歳	3 (0.2)	4 (0.3)	3 (0.2)	1 (0.1)	1 (0.1)
30～39歳	3 (0.3)	6 (0.6)	3 (0.3)	5 (0.7)	7 (1.0)
40～49歳	8 (0.7)	6 (0.5)	5 (0.5)	5 (0.5)	8 (1.1)
50～59歳	5 (0.4)	7 (0.6)	10 (0.9)	6 (0.6)	4 (0.4)
60～69歳	8 (0.4)	4 (0.2)	4 (0.2)	8 (0.5)	5 (0.4)
70～79歳	4 (0.1)	6 (0.2)	2 (0.1)	6 (0.2)	5 (0.2)
80歳以上	9 (0.1)	5 (0.1)	7 (0.1)	8 (0.1)	3 (0.1)

2020年の新登録結核患者のうち、医師の登録患者は33人で、前年より6人減少となっている。新登録結核患者中の割合は0.3%となっている。30歳から69歳の年齢階級別新登録結核患者中割合は0.4～1.1%となっている。

表12-3. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（その他）

（ ）内は新登録に占める割合

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
総数	231 (1.3)	280 (1.7)	225 (1.4)	221 (1.5)	223 (1.8)
15～19歳	1 (0.5)	3 (2.0)	3 (1.9)	1 (0.7)	1 (1.3)
20～29歳	36 (2.9)	39 (3.2)	30 (2.4)	33 (2.8)	38 (3.7)
30～39歳	52 (5.2)	64 (6.5)	57 (6.4)	37 (4.8)	51 (7.4)
40～49歳	63 (5.1)	66 (5.7)	38 (3.7)	62 (6.3)	42 (5.7)
50～59歳	44 (3.4)	61 (4.8)	52 (4.5)	50 (4.7)	46 (5.0)
60～69歳	28 (1.3)	34 (1.7)	38 (2.2)	30 (2.0)	34 (2.7)
70～79歳	7 (0.2)	11 (0.3)	7 (0.2)	7 (0.2)	10 (0.4)
80歳以上	0 (0.0)	2 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)

（注）その他：理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師等および介護職等、看護師・保健師・医師以外で医療機関に勤務する結核感染リスクが高いと考えられる者。

2020年の新登録結核患者のうち、理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師など、看護師・保健師・医師以外の者で医療機関に勤務する者の登録患者数は223人で昨年の221人から2人の増加となり、新登録結核患者のうちの割合は1.8%となっている。30歳から69歳での年齢階級別では、30～39歳における割合が最も大きく、同年齢階級新登録結核患者の7.4%となっている。

表13-1. 年次別 無職臨時日雇等の新登録結核患者数

( ) 内は新登録に占める割合)

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
合 計	1,105 (23.2)	878 (18.9)	869 (20.0)	762 (19.2)	673 (19.9)
20～24歳	66 (10.5)	44 (7.2)	52 (8.0)	50 (8.1)	51 (10.1)
25～29歳	96 (15.9)	89 (14.3)	73 (11.8)	60 (11.0)	75 (14.4)
30～34歳	98 (19.0)	90 (17.8)	79 (17.2)	59 (16.0)	62 (17.2)
35～39歳	97 (19.9)	86 (17.8)	89 (20.9)	85 (21.4)	73 (22.4)
40～44歳	137 (24.0)	105 (20.0)	80 (18.5)	78 (17.8)	73 (22.2)
45～49歳	187 (28.5)	141 (22.2)	142 (23.6)	129 (23.6)	89 (21.6)
50～54歳	175 (29.1)	148 (24.2)	153 (27.5)	134 (24.5)	114 (24.6)
55～59歳	249 (35.9)	175 (26.7)	201 (33.9)	167 (32.9)	136 (29.6)

(注) 無職臨時日雇等：接客業、医療従事者、他の常用勤労者・自営業等、家事従事者、学生、その他不明を除く。合計は20歳～59歳の計。

表13-2. 年次別 無職臨時日雇等の新登録結核患者数(男性、再掲)

( ) 内は新登録に占める割合)

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
合 計	613 (21.3)	507 (18.3)	485 (18.6)	422 (17.7)	334 (17.3)
20～24歳	44 (11.5)	29 (8.5)	23 (6.2)	26 (6.8)	12 (4.8)
25～29歳	37 (11.5)	44 (13.2)	35 (10.0)	34 (11.2)	42 (14.3)
30～34歳	41 (15.2)	35 (13.6)	31 (13.1)	24 (11.9)	29 (15.5)
35～39歳	43 (15.7)	31 (12.1)	39 (17.0)	36 (16.8)	29 (19.0)
40～44歳	69 (20.8)	53 (17.4)	43 (15.9)	35 (13.7)	27 (15.2)
45～49歳	110 (27.1)	91 (22.5)	83 (22.6)	74 (23.3)	48 (18.4)
50～54歳	109 (26.7)	111 (25.2)	94 (25.1)	86 (23.4)	58 (19.9)
55～59歳	160 (33.5)	113 (25.9)	137 (34.1)	107 (31.6)	89 (28.4)

(注) 無職臨時日雇等：接客業、医療従事者、他の常用勤労者・自営業等、家事従事者、学生、その他不明を除く。合計は20歳～59歳の計。

2020年の新登録結核患者のうち、登録時の年齢が20～59歳であり、登録時の職業が無職臨時日雇等であった者は673人で、前年の762人から89人減少している。新登録結核患者のうちの割合は19.9%で前年の19.2%から0.7ポイントの増加となっている。年齢階級別での患者数は、高齢ほど多くなっており、55～59歳は136人で、同年齢階級の29.6%となっている。

また、男性の患者に占める無職臨時日雇等の者の割合は55～59歳が最も割合が大きく28.4%となっているが、前年から3.2ポイント減少となっている。

表14-1. 前年(2019年)新登録結核患者の治療成績

	総数	治療成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	14,422	9,562 (66.3)	3,327 (23.1)	11 (0.1)	198 (1.4)	377 (2.6)	919 (6.4)	28 (0.2)
0～9歳	27	25 (92.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.7)	1 (3.7)	0 (0.0)
10～19歳	153	123 (80.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.7)	15 (9.8)	13 (8.5)	1 (0.7)
20～29歳	1,164	878 (75.4)	2 (0.2)	1 (0.1)	13 (1.1)	158 (13.6)	108 (9.3)	4 (0.3)
30～39歳	767	635 (82.8)	8 (1.0)	0 (0.0)	12 (1.6)	59 (7.7)	50 (6.5)	3 (0.4)
40～49歳	983	831 (84.5)	19 (1.9)	1 (0.1)	24 (2.4)	37 (3.8)	68 (6.9)	3 (0.3)
50～59歳	1,045	888 (85.0)	55 (5.3)	1 (0.1)	12 (1.1)	19 (1.8)	67 (6.4)	3 (0.3)
60～69歳	1,460	1,139 (78.0)	184 (12.6)	0 (0.0)	20 (1.4)	19 (1.3)	98 (6.7)	0 (0.0)
70～79歳	2,801	2,016 (72.0)	531 (19.0)	3 (0.1)	39 (1.4)	23 (0.8)	183 (6.5)	6 (0.2)
80～89歳	4,053	2,253 (55.6)	1,454 (35.9)	3 (0.1)	62 (1.5)	33 (0.8)	242 (6.0)	6 (0.1)
90歳以上	1,969	774 (39.3)	1,074 (54.5)	2 (0.1)	15 (0.8)	13 (0.7)	89 (4.5)	2 (0.1)

2019年の新登録結核患者の2020年末での治療成績は、治療成功が66.3%、死亡23.1%、失敗0.1%、脱落・中断1.4%、転出2.6%、治療中6.4%、不明0.2%となっている。60歳以上から年齢階級の上昇にともなって死亡割合が増加し、60～69歳で12.6%、70～79歳で19.0%、80～89歳で35.9%、90歳以上で54.5%となっている。死亡の影響が少ない59歳以下の年齢階級の治療成功割合は75.4%～92.6%となっている。脱落・中断は40～49歳で最も高く2.4%となっている。

表14-2. (再掲)前年(2019年)新登録再治療結核患者の治療成績

	総数	治療成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	667	461 (69.1)	122 (18.3)	1 (0.1)	9 (1.3)	9 (1.3)	63 (9.4)	2 (0.3)
0～9歳	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
10～19歳	3	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)
20～29歳	36	24 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (8.3)	9 (25.0)	0 (0.0)
30～39歳	37	26 (70.3)	1 (2.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.7)	9 (24.3)	0 (0.0)
40～49歳	56	47 (83.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.8)	1 (1.8)	6 (10.7)	1 (1.8)
50～59歳	71	59 (83.1)	6 (8.5)	1 (1.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (7.0)	0 (0.0)
60～69歳	85	63 (74.1)	10 (11.8)	0 (0.0)	1 (1.2)	1 (1.2)	10 (11.8)	0 (0.0)
70～79歳	157	111 (70.7)	26 (16.6)	0 (0.0)	2 (1.3)	3 (1.9)	15 (9.6)	0 (0.0)
80～89歳	159	94 (59.1)	53 (33.3)	0 (0.0)	4 (2.5)	0 (0.0)	7 (4.4)	1 (0.6)
90歳以上	63	35 (55.6)	26 (41.3)	0 (0.0)	1 (1.6)	0 (0.0)	1 (1.6)	0 (0.0)

2019年の新登録再治療結核患者の2020年末での治療成績は、治療成功が69.1%、死亡18.3%、失敗0.1%、脱落・中断1.3%、転出1.3%、治療中9.4%、不明0.3%となっている。

表14-3. 前年(2019年)新登録潜在性結核感染症(LTBI)治療開始者の治療成績

	総数	治療完了 (%)	死亡 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	7,590	6,392 (84.2)	199 (2.6)	567 (7.5)	129 (1.7)	272 (3.6)	31 (0.4)
0～9歳	463	422 (91.1)	0 (0.0)	8 (1.7)	9 (1.9)	23 (5.0)	1 (0.2)
10～19歳	175	157 (89.7)	0 (0.0)	2 (1.1)	6 (3.4)	10 (5.7)	0 (0.0)
20～29歳	859	706 (82.2)	1 (0.1)	48 (5.6)	49 (5.7)	52 (6.1)	3 (0.3)
30～39歳	745	646 (86.7)	2 (0.3)	40 (5.4)	21 (2.8)	33 (4.4)	3 (0.4)
40～49歳	1,011	875 (86.5)	1 (0.1)	88 (8.7)	13 (1.3)	31 (3.1)	3 (0.3)
50～59歳	1,126	960 (85.3)	7 (0.6)	108 (9.6)	7 (0.6)	41 (3.6)	3 (0.3)
60～69歳	1,128	981 (87.0)	20 (1.8)	91 (8.1)	7 (0.6)	23 (2.0)	6 (0.5)
70～79歳	1,281	1,046 (81.7)	66 (5.2)	111 (8.7)	10 (0.8)	43 (3.4)	5 (0.4)
80～89歳	693	521 (75.2)	85 (12.3)	61 (8.8)	7 (1.0)	13 (1.9)	6 (0.9)
90歳以上	109	78 (71.6)	17 (15.6)	10 (9.2)	0 (0.0)	3 (2.8)	1 (0.9)

2019年の潜在性結核感染症新登録者のうち治療を開始した者の2020年末での治療完了率は84.2%となっている。脱落・中断は7.5%となっているが、中高年齢階級では高く50～59歳では9.6%となっている。

表14-4. 前々年(2018年)新登録結核患者で多剤耐性の者の治療成績

	総数	治療成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	66	44 (66.7)	5 (7.6)	0 (0.0)	2 (3.0)	7 (10.6)	5 (7.6)	3 (4.5)

(注) 表14-1～表14-4: 2020年末までの治療成績

2018年の新登録結核患者で多剤耐性結核患者の2020年末での治療成績は、対象66人のうち治療成功66.7%、死亡7.6%、失敗0.0%、脱落・中断3.0%、転出10.6%、治療中7.6%、不明4.5%となっている。

## 率の算出に使用した人口について

総人口および都道府県・政令市別人口は総務省統計局による令和2年国勢調査の人口速報集計値を用いた。

<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka.html>